

平成 30 (2018) 年度 東北大学法科大学院入学試験 一般選抜 (前期)
試験科目：公法 (憲法)

以下の 2 事例それぞれについて、どのような内容の「沈黙の自由」保障がどのような憲法解釈論に基づいて問題となり、違憲・合憲いずれの評価に到達すると考えられるかを説明せよ。その際に、両事例でなぜ違った内容の「沈黙の自由」保障が問題となるのかという点をも、明らかにせよ。

(a) 国が公務員の採用選考において、政治的左翼の思想を持つ志願者は採用しないとの方針の下、志願者に対してその身上書に、学生運動歴の事実の記載を求める場合。

(b) 裁判所が刑事裁判において、係属事件の現場に居合わせた人を証人とし、その証人に対して、見聞した事実の証言を義務づける場合。